【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

月次運用レポート

2016年2月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン（以下、「AB」）*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするABの日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。グローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、株式、債券、マルチアセット、オルタナティブ運用など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*ABには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊ 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境　[2016年2月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前月末比△9．37％下落の1，297．85ポイントで終了しました。
月前半は、日銀によるマイナス金利政策の導入決定が好感されたことなどを背景に上昇した後、急速な円高に加え、10年国債利回りがマイナスとなり運用環境の悪化懸念などを受けて金融株が売られたことなどから、大幅に下落しました。月後半は、円高進行の一服や原油先物価格の反発などから、株価は幾分持ち直す展開となりました。
業種別（東証33業種）では、月間で上昇した業種はなく、原油市況の悪化などの影響を受け「鉱業」（同△21．78％）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、原油相場の反発などで上昇する場面もありましたが、FRB（米連邦準備制度理事会）議長の議会証言で米国の先行きの景気減速が懸念されたことなどから下落しました。月後半は、原油先物価格の上昇などで市場心理が好転し、またエネルギーや素材関連銘柄が買われたことなどから上昇しました。NYダウは、前月末比＋0．3％上昇の16，516．50ドルで終了しました。
欧州株式市場は、月前半、独大手銀行の利払い懸念などから下落が続きましたが、同銀行が債券の買戻し計画を発表したことなどを受けて上昇しました。月後半は、ECB（欧州中央銀行）のドラギ総裁が3月にも追加金融緩和を行う可能性を改めて示唆したことなどから、上昇しました。月を通して見ると、市場別騰落率は、英FT100が前月末比＋0．22％上昇、仏CAC40が同△1．44％下落、独DAXが同△3．09％下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、日銀がマイナス金利の導入を決定したことや大幅な円高・株安の進行などを受け、金利は低下（価格は上昇）し、一時マイナス圏に低下した後、利益確定目的の売りが強まったことなどから上昇（価格は下落）しました。月後半は、プラスの利回りを求めて超長期国債を買う動きが加速したことなどから、20～40年国債利回りは過去最低水準を更新し、10年国債利回りも再びマイナス圏に突入しました。新発10年国債利回りは、月末は△0．065％となりました（前月末は0．095％）。
日銀が前月末に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を決定したことに伴い、2月16日より日銀は一部当座預金にマイナス金利を適用したことを受けて無担保コール翌日物金利は水準を切り下げ、概ね△0．02～0．1％近辺で推移しました。

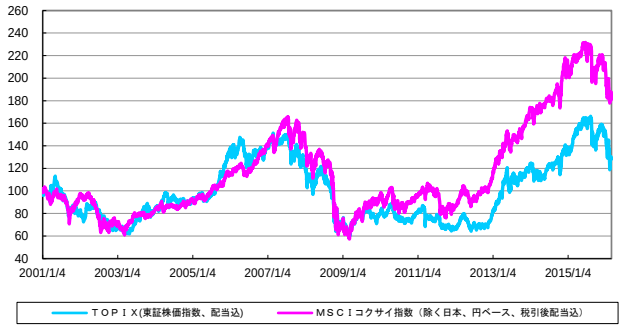
【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半、原油先物価格や米国株式の下落などを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことやFRB議長の議会証言での先行きの利上げペースが緩やかとの見方などを受けて、金利は低下（価格は上昇）しました。月後半は、米国株式の上昇などで売りが先行し、上昇（価格は下落）した後、原油先物価格の反発などを背景に、リスク回避姿勢が和ぎましたが、ほぼ横ばいの動きとなりました。米10年国債利回りは、月末は1．735％となりました（前月末は1．921％）。
欧州債券市場は、月前半、追加金融緩和観測の強まりなどを背景に、金利は低下（価格は上昇）しました。月後半は、原油先物価格の反発などを背景に上昇（価格は下落）する場面もありましたが、ECBによる追加金融緩和への期待や英国のEU（欧州連合）離脱を問う国民投票への警戒感が高まったことなどから低下しました。独10年国債利回りは、月末は0．107％となりました（前月末は0．325％）。
FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．25～0．50％を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を据え置き、年0．05％を維持しました。

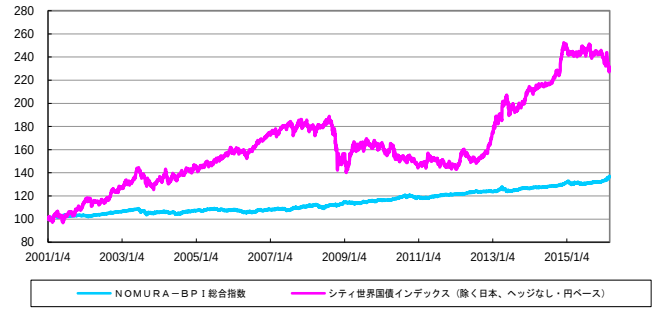
【外国為替市場】

米ドル／円相場は、前月末比7円25銭円高ドル安の1ドル＝113円62銭となりました。月前半、日米株式の下落などでリスク回避の円買いが強まったことや、FRB議長の議会証言での先行きの利上げペースが緩やかとの見方などを受けて、円高が加速しました。月後半は、原油先物価格の上昇などで円安となる一方、米国の利上げ観測が後退する中、円の先高観は強く、一進一退の推移となりました。
ユーロ／円相場は、前月末比8円06銭円高ユーロ安の1ユーロ＝124円11銭となりました。月前半、原油先物価格や欧州株の下落、欧州での信用不安の高まりなどを背景に、揉み合いながら円高が進行しました。月後半は、円安となる場面もありましたが、ECBによる追加金融緩和への期待や英国のEU離脱を巡る不透明感の高まりなどを受けて、市場のリスク回避傾向から円高圧力が継続したこともあり、引き続き円高が進行しました。

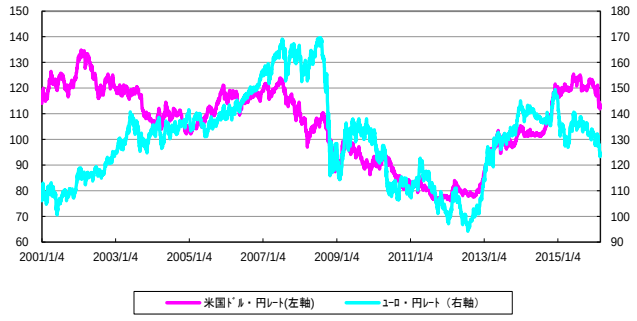
日本と外国の株式市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



日本と外国の債券市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート （2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション50	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション70	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式※1	世界株式 100%	マザー・ファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざします。実質的な外貨建組入資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。
※1 当特別勘定で投資していた「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）」（委託会社:アライアンス・バーンスタイン株式会社）は、2015年10月29日に償還され、2015年10月より新たに「アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき）＜適格機関投資家私募＞」に投資しております。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

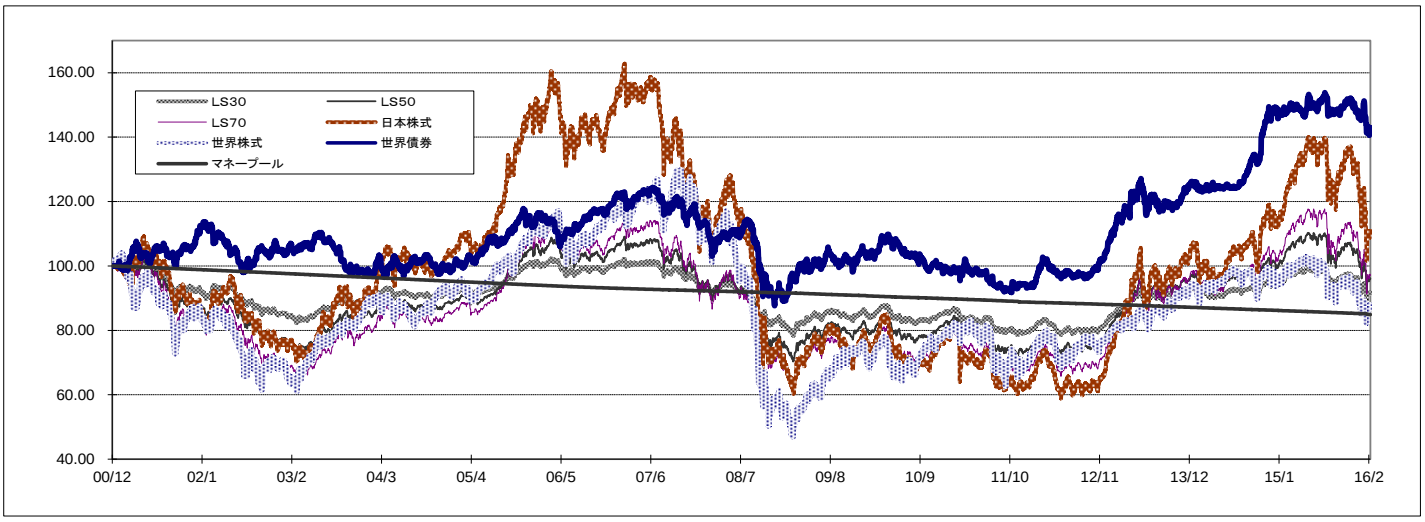
変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　(2016年2月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2016年2月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	91.59	過去1ヵ月	▲2.58
2016年1月末	94.01	過去3ヵ月	▲5.81
2015年12月末	96.42	過去6ヵ月	▲4.98
2015年11月末	97.24	過去1年	▲5.60
2015年10月末	96.86	過去3年	5.75
2015年9月末	94.19	設定来	▲8.41

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	95.93	過去1ヵ月	▲4.53
2016年1月末	100.48	過去3ヵ月	▲10.03
2015年12月末	105.19	過去6ヵ月	▲8.34
2015年11月末	106.62	過去1年	▲8.91
2015年10月末	105.78	過去3年	12.39
2015年9月末	100.51	設定来	▲4.07

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	96.99	過去1ヵ月	▲6.30
2016年1月末	103.51	過去3ヵ月	▲13.90
2015年12月末	110.57	過去6ヵ月	▲11.39
2015年11月末	112.65	過去1年	▲11.92
2015年10月末	111.32	過去3年	17.81
2015年9月末	103.25	設定来	▲3.00

日本株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	110.10	過去1ヵ月	▲9.75
2016年1月末	122.00	過去3ヵ月	▲18.58
2015年12月末	132.01	過去6ヵ月	▲14.47
2015年11月末	135.22	過去1年	▲11.41
2015年10月末	131.93	過去3年	33.62
2015年9月末	120.45	設定来	10.10

世界株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	87.94	過去1ヵ月	0.62
2016年1月末	87.40	過去3ヵ月	▲8.69
2015年12月末	94.90	過去6ヵ月	▲6.39
2015年11月末	96.31	過去1年	▲12.09
2015年10月末	95.85	過去3年	8.69
2015年9月末	88.64	設定来	▲12.05

世界債券			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	142.98	過去1ヵ月	▲4.91
2016年1月末	150.37	過去3ヵ月	▲5.59
2015年12月末	148.39	過去6ヵ月	▲4.01
2015年11月末	151.46	過去1年	▲3.71
2015年10月末	149.33	過去3年	25.05
2015年9月末	148.36	設定来	42.99

マネープール			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2016年2月末	84.90	過去1ヵ月	▲0.33
2016年1月末	85.17	過去3ヵ月	▲0.51
2015年12月末	85.25	過去6ヵ月	▲0.79
2015年11月末	85.33	過去1年	▲1.37
2015年10月末	85.43	過去3年	▲3.43
2015年9月末	85.50	設定来	▲15.10

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	79,459	3.9	209,122	4.1	130,949	3.9
その他有価証券	1,946,093	96.1	4,947,358	95.9	3,195,740	96.1
合計	2,025,553	100.0	5,156,481	100.0	3,326,690	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネープール	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	148,006	4.4	72,253	3.7	101,313	4.3	36,271	11.2
その他有価証券	3,243,342	95.6	1,878,944	96.3	2,254,103	95.7	286,285	88.8
合計	3,391,348	100.0	1,951,198	100.0	2,355,417	100.0	322,557	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

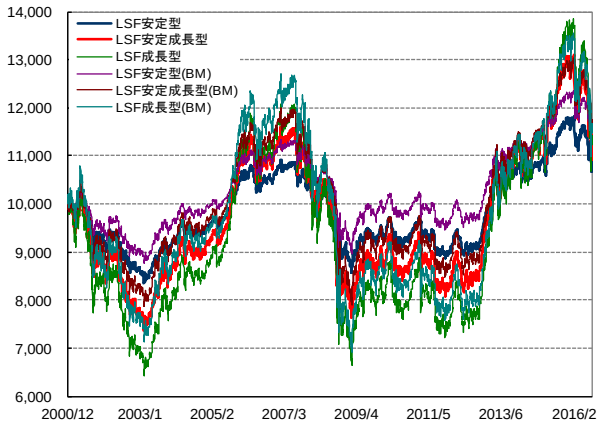
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30・50・70　［ 2016年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
に投資します。

＊ LS:　特別勘定　ライフ・ソリューション
＊ LSF:　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	▲2.60%	▲5.78%	▲4.62%	▲4.67%	10.02%	9.19%
BM	▲1.92%	▲4.52%	▲3.41%	▲3.39%	10.81%	16.12%
差	▲0.68%	▲1.26%	▲1.21%	▲1.28%	▲0.79%	▲6.93%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	▲4.62%	▲10.18%	▲8.12%	▲8.17%	17.14%	14.01%
BM	▲3.39%	▲7.81%	▲6.11%	▲6.19%	17.02%	17.05%
差	▲1.23%	▲2.37%	▲2.01%	▲1.98%	0.11%	▲3.04%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	▲6.50%	▲14.27%	▲11.40%	▲11.42%	22.83%	13.75%
BM	▲4.79%	▲10.99%	▲8.79%	▲9.07%	22.80%	16.22%
差	▲1.71%	▲3.28%	▲2.61%	▲2.35%	0.02%	▲2.47%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%	40.00%	55.00%
S&P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%	25.00%	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	25.19%
米国株式	3.00%	1.76%
欧州株式	3.00%	2.90%
日本債券	30.00%	39.35%
短期金融資産等	40.00%	30.80%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	46.07%
米国株式	5.00%	3.86%
欧州株式	5.00%	5.56%
日本債券	25.00%	28.17%
短期金融資産等	25.00%	16.33%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	65.13%
米国株式	7.50%	6.48%
欧州株式	7.50%	8.97%
日本債券	17.50%	16.14%
短期金融資産等	12.50%	3.28%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30（安定型）、LSF50（安定成長型）、LSF70（成長型）それぞれ、前月末比▲2．60%、▲4．62%、▲6．50%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前月末比▲1．92%、▲3．39%、▲4．79%となり、ベンチマーク対比▲0．68%、▲1．23%、▲1．71%となりました。
米国では、上旬は原油価格の低迷や米国景気の鈍化懸念などが嫌気され軟調な展開となりましたが、下旬には、FRB（米連邦準備制度理事会）による3月利上げ観測が後退し、また主要産油国の一部が増産凍結で合意したことを受け原油価格の反発が好感され、株式市場は上昇しました。欧州では、ECB（欧州中央銀行）の追加金融緩和への期待が高まったものの、原油安や企業決算の不振に加え、主要金融機関の信用不安や英国のEU離脱懸念が強まったことなどから、株式市場は下落しました。日本では、世界経済の先行き不透明感などの海外要因に左右される展開が続く中、急速な円高進行による国内企業の業績下振れ懸念が拡大したことから、株式市場は下落しました。日本債券市場では、日銀の「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」による需給の引き締まりを受けて、日本国債の利回りは急低下し、10年債利回りは史上初めてマイナスに突入しました。
当月の投資信託は、主に資産配分効果がベンチマーク対比のパフォーマンスにマイナス寄与しました。なかでも、日本株式の資産配分効果が大きくマイナス寄与しました。委託会社は今後、雇用を中心に堅調な米国経済、穏やかな回復が続く欧州経済、内需主導で緩やかな回復が続く日本経済などを中心に世界経済が回復すると考えています。一方、エマージング諸国の経済は低成長局面に移行すると予想しています。当投資信託については、ベンチマークに対してマネープールファンドへの配分比率を低位として株式の配分比率を高める戦略を維持する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

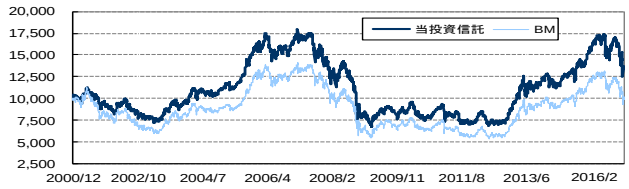
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2016年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲9.84%	▲19.03%	▲14.54%	▲10.91%	40.17%	35.85%
BM	▲9.37%	▲17.87%	▲15.56%	▲14.83%	33.02%	0.66%
差	▲0.47%	▲1.16%	1.02%	3.92%	7.14%	35.19%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	11.54%
2	情報・通信業	10.93%
3	小売業	10.13%
4	輸送用機器	9.44%
5	銀行業	7.20%
6	化学	7.15%
7	医薬品	6.69%
8	食料品	5.81%
9	その他業種	29.99%
10	現金等	1.13%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	95.93%
2	その他の市場	1.40%
3	ジャスダック証券取引所	1.08%
4	東京証券取引所第二部	0.44%
5	名古屋証券取引所第二部	0.02%
6	名古屋証券取引所第一部	0.01%
7	現金等	1.13%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.55%
2	日本電信電話	情報・通信業	2.78%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.59%
4	日本たばこ産業	食料品	2.49%
5	KDDI	情報・通信業	2.39%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.28%
7	アステラス製薬	医薬品	2.04%
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.89%
9	日産自動車	輸送用機器	1.71%
10	三菱電機	電気機器	1.65%
合計			23.37%
組入銘柄数			186銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲9．84%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比▲9．37%となりました。当月の日本株式市場では、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた移動体通信や通信が上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた三菱電機（6503）や田辺三菱製薬（4508）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた旭硝子（5201）やNOK（7240）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

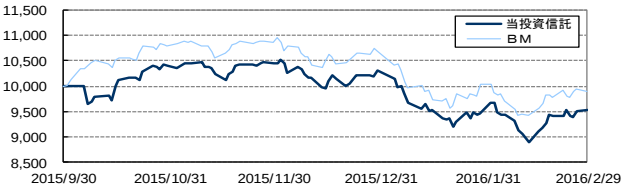
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界株式　［ 2016年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2015年9月30日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名(※1)】アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき）
＜適格機関投資家私募＞
【委託会社(※2)】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。

※　当投資信託は、主としてアクサ IM・グローバル（日本除く）株式マザーファンド受益証券ならびにアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

※1,2「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）」(委託会社:アライアンス・バーンスタイン株式会社)は、2015年10月29日に償還されました。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.73%	▲8.82%	―	―	―	▲4.62%
BM	▲1.51%	▲8.92%	―	―	―	▲1.10%
差	2.24%	0.10%	―	―	―	▲3.52%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2015年9月30日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス[*6]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○　国別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	56.16%
2	日本	8.27%
3	イギリス	7.19%
4	フランス	3.66%
5	カナダ	3.61%
6	ドイツ	3.35%
7	スイス	3.26%
8	オーストラリア	2.48%
9	その他の国	10.98%
10	現金等	1.04%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	9.68%
2	ソフトウェア・サービス	8.94%
3	銀行	8.50%
4	資本財	7.87%
5	食品・飲料・タバコ	7.63%
6	エネルギー	5.19%
7	小売	5.02%
8	素材	4.54%
9	その他業種	41.60%
10	現金等	1.04%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.89%
2	APPLE INC.	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	1.56%
3	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.46%
4	AT&T INC.	アメリカ	電気通信サービス	1.15%
5	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.01%
6	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	0.99%
7	PFIZER INC.	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	0.99%
8	MERCK & CO.INC.	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	0.75%
9	INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	0.75%
10	NESTLE SA	スイス	食品・飲料・タバコ	0.75%
合計				11.29%
組入銘柄数				913銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0．73%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は前月末比▲1．51%となりました。当月のグローバル（日本含む）株式市場は、企業規模の大きい銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた金属や石油メジャーが上昇したことはマイナスに寄与しました。地域別では下落した日本の銘柄を少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたエネルギーのMARATHON PETROLEUM CORP（アメリカ）が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた小売のTHE PRICELINE GROUP INC.（アメリカ）が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、日本を含む世界各国の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

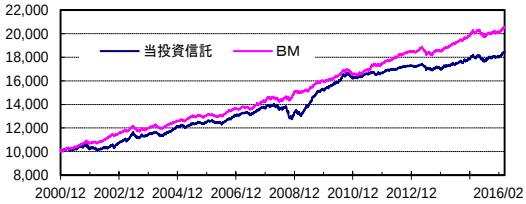
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2016年2月 末日現在 ］

■当投資信託の純資産価格の推移



※　2000年12月21日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.81%	2.22%	3.07%	2.42%	6.87%	142.60%
BM	0.96%	2.16%	3.15%	2.19%	11.12%	175.59%
差	▲0.16%	0.06%	▲0.08%	0.23%	▲4.25%	▲32.99%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・グローバル総合インデックス[*7]です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	45.66%
2	日本	11.10%
3	イギリス	9.49%
4	オーストラリア	4.27%
5	ドイツ	3.65%
6	フランス	3.32%
7	イタリア	3.32%
8	オランダ	2.73%
9	その他	8.78%
10	現金等	7.68%
合計		100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	61.93%
AA	7.14%
A	19.39%
BBB	11.54%
BB	0.00%
合計	100.00%

注）現金等はAAAに含まれます。
格付基準:
※　ムーディーズ社または
　スタンダード＆プアーズ（S&P）社のうち、
　いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

	債券種別	投資信託
1	国債	55.23%
2	投資適格社債	22.71%
3	カバードボンド	6.40%
4	政府関連債	3.47%
5	インフレ連動債	1.74%
6	地方債（州政府）	1.46%
7	地方債（地方自治体）	0.69%
8	国際機関債	0.46%
9	その他*	0.16%
10	現金等	7.68%
合計		100.00%

＊　国債先物取引等を含む場合がございます。

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	10.93%
2	アメリカ国債(5/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	6.08%
3	日本国債(9/20/17)	日本	A1	A+	4.88%
4	アメリカ国債(8/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	3.96%
5	アメリカ国債(2/15/18-5/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	3.45%
6	アメリカ国債(2/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	3.40%
7	アメリカ国債(8/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	3.08%
8	オーストラリア国債(5/15/21)	オーストラリア	Aaa	AAA	3.02%
9	アメリカインフレ連動債(4/15/19-4/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	1.74%
10	アメリカ国債(11/15/16)	アメリカ	Aaa	AA+	1.73%
合計					42.27%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

	債券種別	投資信託
1	アメリカドル	99.60%
2	その他	0.40%
合計		100.00%

○ ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	4.92

※「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。
　債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、
　金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前月末比＋0．81%、一方ベンチマークであるバークレイズ・グローバル総合インデックスは前月末比＋0．96%となりました。
2月、当投資信託の純資産価格は上昇しましたが、ベンチマークに対しては米国、ユーロ圏、日本を低めの組み入れとした国別配分が主なマイナス要因となりました。セクター別配分では、イギリスの投資適格社債を高めの組み入れとしたことがマイナス要因となりました。
当投資信託では、長期ゾーンを中心に信用リスクを低めとする慎重なポジションを維持します。ベンチマーク対比では日本、ユーロ圏および米国については金利の変動に対する感応度を小さめとし、イギリスやオーストラリアについては感応度を大きめとしています。また、日本円を高めの組入れとする一方、アジア圏の通貨は低めの組入れとします。当投資信託は、ユーロ、イギリス、日本、カナダ、オーストラリア、米国の先物やイギリスおよび日本の金利スワップ等を使用して全体の金利の変動に対する価格感応度をベンチマーク並みとなるよう調整していますが、現在はベンチマークよりやや小さめとしています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

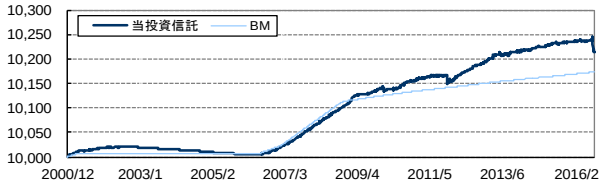
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
　Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2016年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　マネープール　［ 2016年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.23%	▲0.21%	▲0.20%	▲0.17%	0.15%	2.15%
BM	0.00%	0.02%	0.03%	0.07%	0.21%	1.73%
差	▲0.24%	▲0.23%	▲0.23%	▲0.24%	▲0.06%	0.42%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート[*5]により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.96年	86.10%
国債	0.00年	0.00%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.96年	86.10%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.02年	13.90%
CD		0.00%
CP		0.00%
T-Bill		1.69%
コールローン		0.00%
その他		12.20%
合計	0.83年	100.00%

※　「T-Bill」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。
※　「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	43.60%
A	44.04%
BBB	12.36%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

○　短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

格付基準：※　海外格付機関の格付を優先します。
※　コールローンは格付別構成比率には含めていません。
（公社債の格付別構成比率と短期資産等の格付別構成比率の合計が100%になります。）
※　海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
※　T-Bill等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。
※　T-Billに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0．23%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前月末比＋0．00%となりました。
当月は日銀の「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」による需給の引き締まりを受け、当月末の2年国債利回りは前月末比0．163%下落のマイナス0．235%となりました。
委託会社は、国内債券市場が日銀の金融緩和政策によって引き続き低金利で推移するとみています。今後の運用方針として、年限の短い国債への投資で流動性を確保しつつ、国債の組入れを減らしてクレジットリスクの低い社債へ投資して、安定した運用と利回りの向上をめざす方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S&P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（現地通貨ベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（配当込み・グロス・現地通貨建て）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊7「バークレイズ・グローバル総合インデックス」は、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社（バークレイズ）が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の**2．0%**	保険料から契約初期費用として2．0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して **年率1．2%***	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

*　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　**100円**	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目**1,500円** 2回目以降は1回につき**2,300円** (*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は**無料** 2回目からは1回につき**800円** (*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利**1．2%**	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の **8．0%～0．8%**	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の **8．0%～0．8%**	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0．972%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1．080%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1．188%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．864%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．540%程度(税抜0．500%程度)注	
		世界債券 年率0．460%程度 *1	
		マネープール 年率0．035100%～年率0．496800%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

注：2015年10月より新たに利用している投資信託の信託報酬率です。
2015年10月29日に償還された投資信託の信託報酬率は年率0．918%程度（税抜0．850%程度）です。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。